

周防大島町における 公共交通再編の検討

令和5年11月

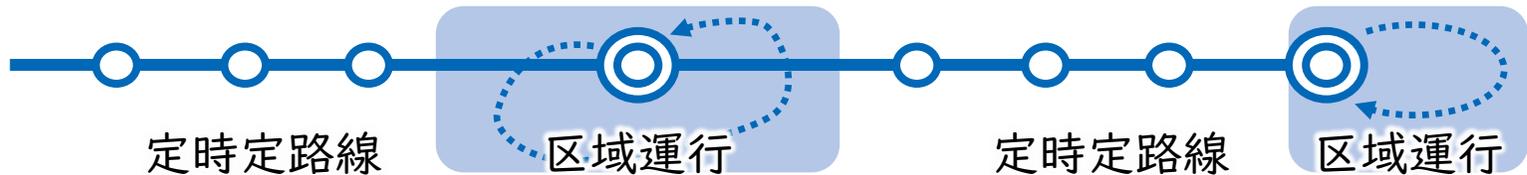
周防大島町の公共交通の見直しの方向性(案)

◆ 病院送迎バス、スクールバス、温泉施設送迎バスを取り込み、町営バス(自家用有償旅客運送)として運営する

- ただし、従来の送迎バス機能を確保するため、町営バス等を利用して対象となる施設を利用した場合、運賃が払い戻される仕組みを検討
- 使用する車両、運転士等は、現在運行している車両や担い手の状況を踏まえて決定

◆ 町営バスは、定時定路線・区域運行のどちらか(あるいは複合)を念頭に運行する

- 例えば、町内の主要な拠点間は定時定路線、拠点のある地区内や遠隔地などは区域運行とする案も検討



◆ 既存のサービス水準(運行便数)はできる限り維持する

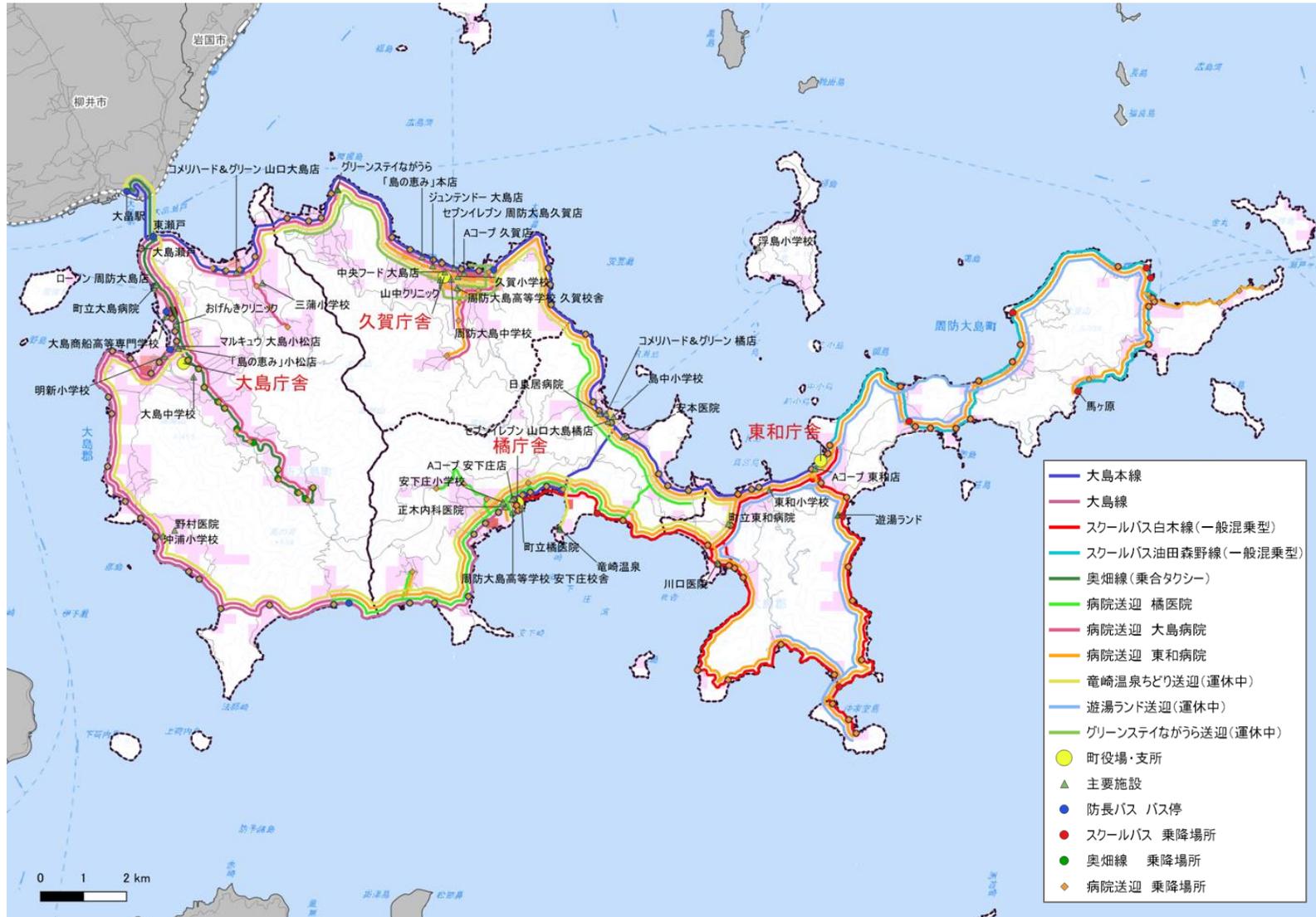
- 重複運行しているものを整理して効率化するのみでなく、運行間隔を調整して、便数自体を維持しつつ利便性を向上する仕組みを検討



以上の方向性を念頭に置き、実現可能性も見据えながら、今後具体案を検討していく

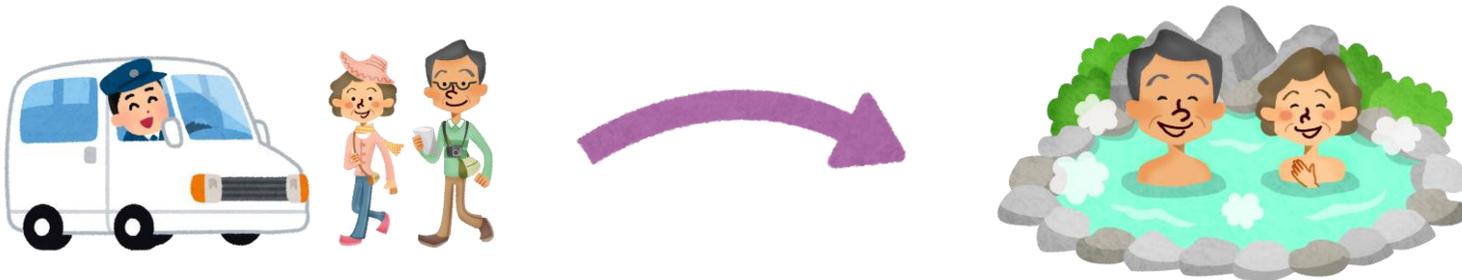
周防大島町における公共交通再編の留意点 (1)

● 様々な移送サービスが独立して同一経路や時間帯に運行されている



周防大島町における公共交通再編の留意点 (2)

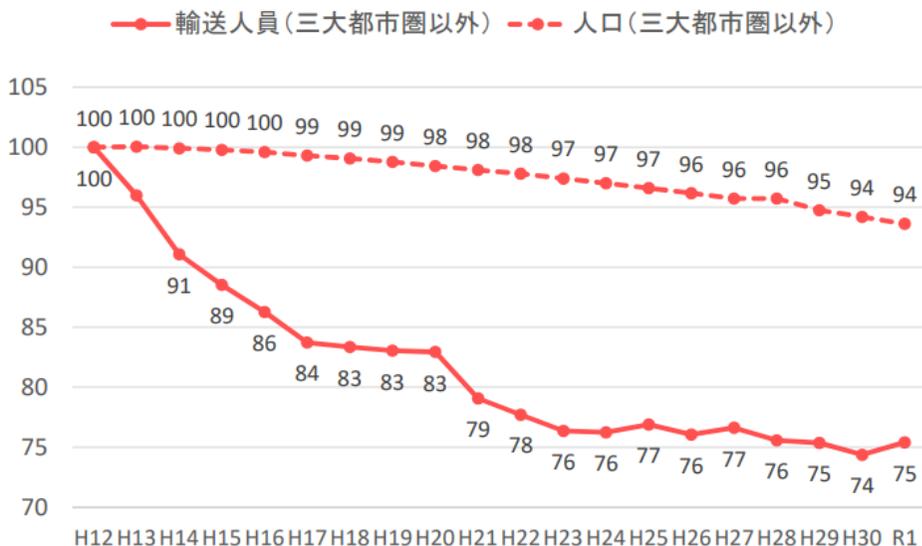
- 朝夕の通学時間帯の路線バスは需要が多いが、それ以外の時間帯の利用者は少なく、車両のダウンサイジングが可能
- 通学需要に対しては定時性・速達性が重要
- クルマを自由に使えない高齢者等に対しては、通院や買物等の活動別の時間帯での移動可能性、自宅から利用しやすいアクセス性が重要
- 温泉や観光需要に対しては、それぞれの目的地のニーズに対応させる
- 大島駅との接続は、利便性の低下を避ける



- バス事業者、タクシー事業者ともにドライバー不足が大きな問題となっており、事業所内の感染症などで急な運休などが全国的に発生している
- 町内タクシー事業者は4社、12両（ジャンボタクシー2両含む）しかなく、持続可能で強靱な運行体制を協力して構築する必要がある

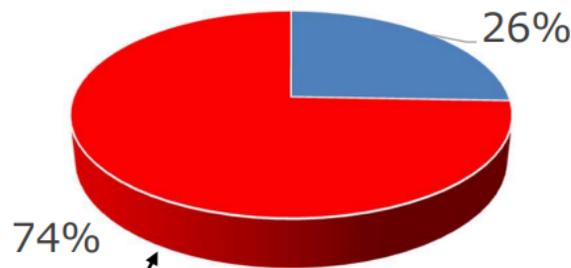
バスの輸送人員の減少

乗合バス（平成12年度を100とした輸送人員）



※「三大都市圏」とは、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、愛知県、京都府、大阪府、兵庫県を指す
 (出典) 「総務省統計局人口推計」「自動車輸送統計年報」より国土交通省作成

一般路線バス事業が赤字である バス事業者の割合



大都市	その他地域
30事業者 (18%)	140事業者 (82%)

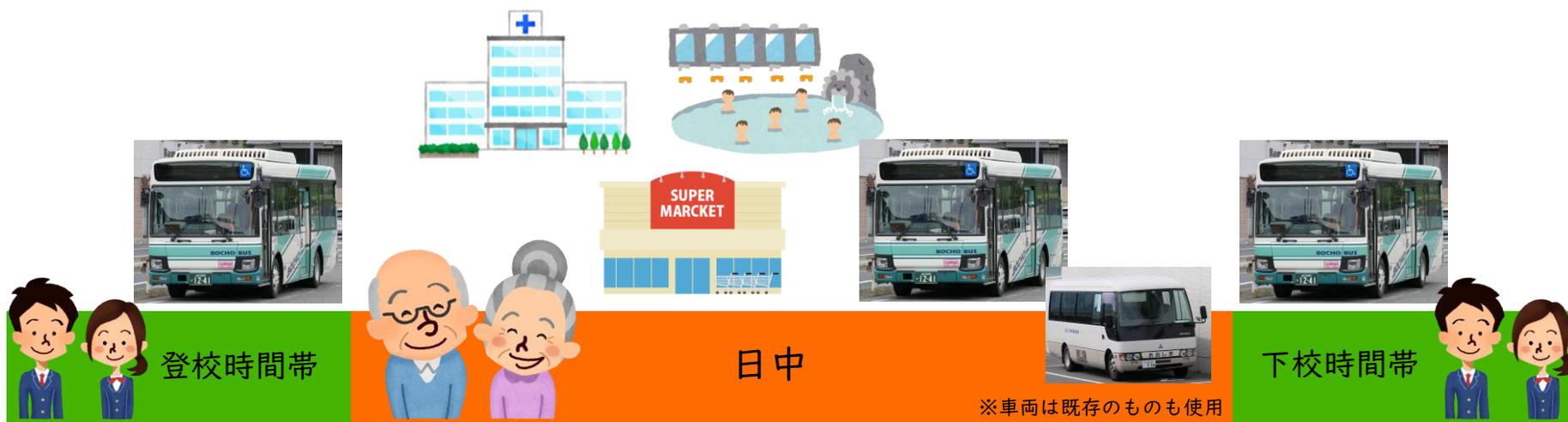
※保有車両30両以上の事業者 (令和元年度)

(出典) 国土交通省自動車局発表資料より総合政策局作成

運行再編の基本的な考え方①

① 4条路線バスと自家用有償旅客運送の組合せによる運行

- 4条路線バスは需要の少ない時間帯を中心に便数削減と経路短縮を検討する
- 自家用有償旅客運送は、4条路線バスを補完する運行とする
 - ・ 病院送迎、温泉送迎等の無償輸送サービスは廃止して需要を統合する
(当該サービス利用者の利便性に配慮)
 - ・ 大畠駅を発着とする現在の防長交通の系統を幹線の基本とする
 - ・ 昼間の時間帯は、クルマを自由に使えない高齢者に対するアクセシビリティ向上も検討する



運行再編の基本的な考え方②

②自家用有償旅客運送事業の共同による運行

- 自家用有償旅客運送事業の運行主体は町とし、運行事業を受託する事業者は、タクシー事業者等がそれぞれ受託するが、個々の事業者のトラブル対応などには共同で対応する仕組みを構築する
- 共同による運行とすることで、緊急的なドライバーの他社運行分担便への配置などを可能とする
- 自家用有償旅客事業とすることで、1種免許証のドライバーの乗務も可能となる
- そのため、既存病院送迎サービス等の運行従事者雇用も可能となる

運行再編の基本的な考え方③

③スクールバス（混乗便・専用便）を有効活用する

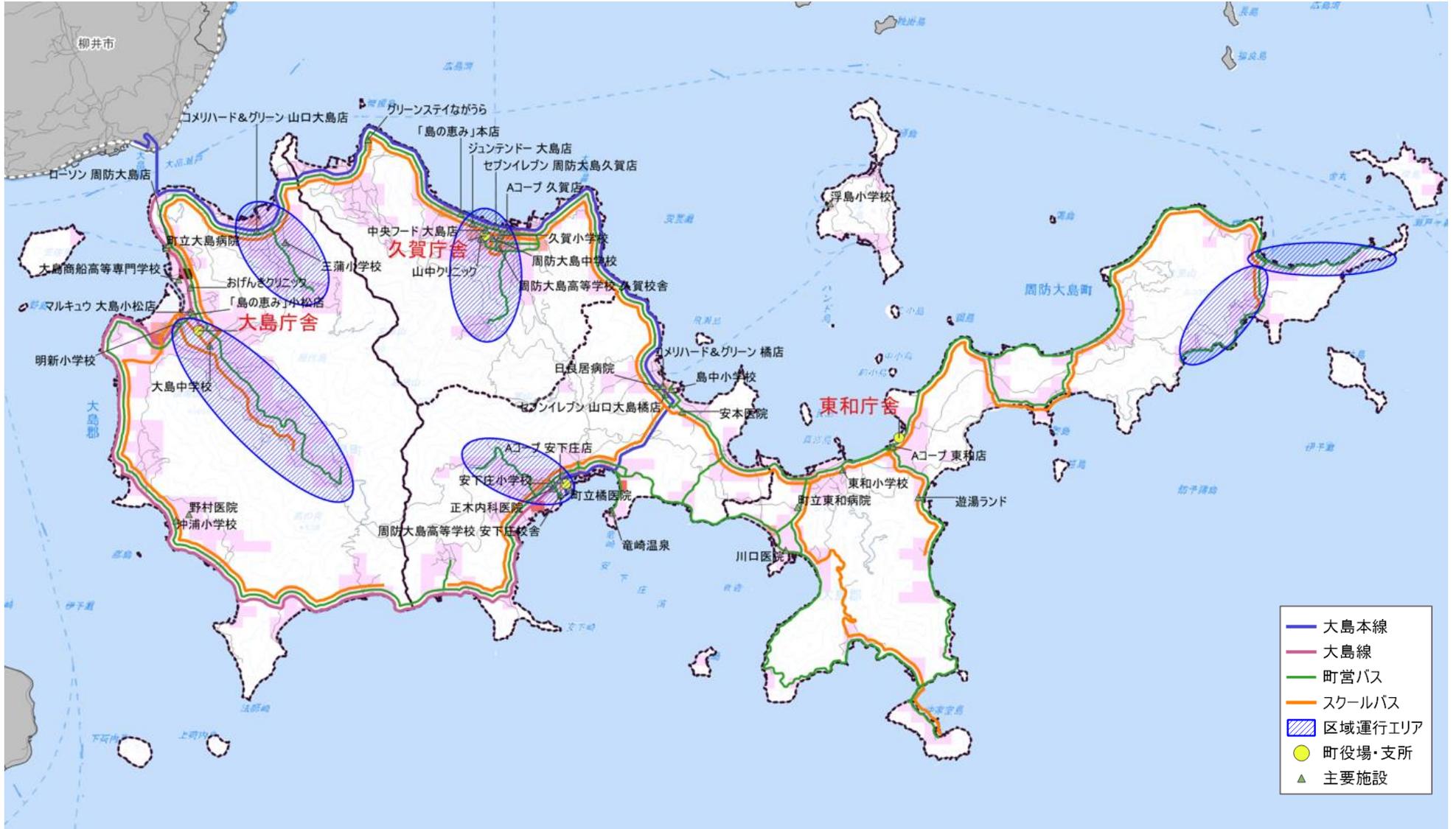
- スクールバス（混乗便）は、現在と同様に混乗による運行を継続する。
- スクールバス（専用便）に関しては、学生の不便にならないよう配慮をしつつ、教育委員会と協議の上、可能な限り自家用有償旅客運送事業として有効活用する。

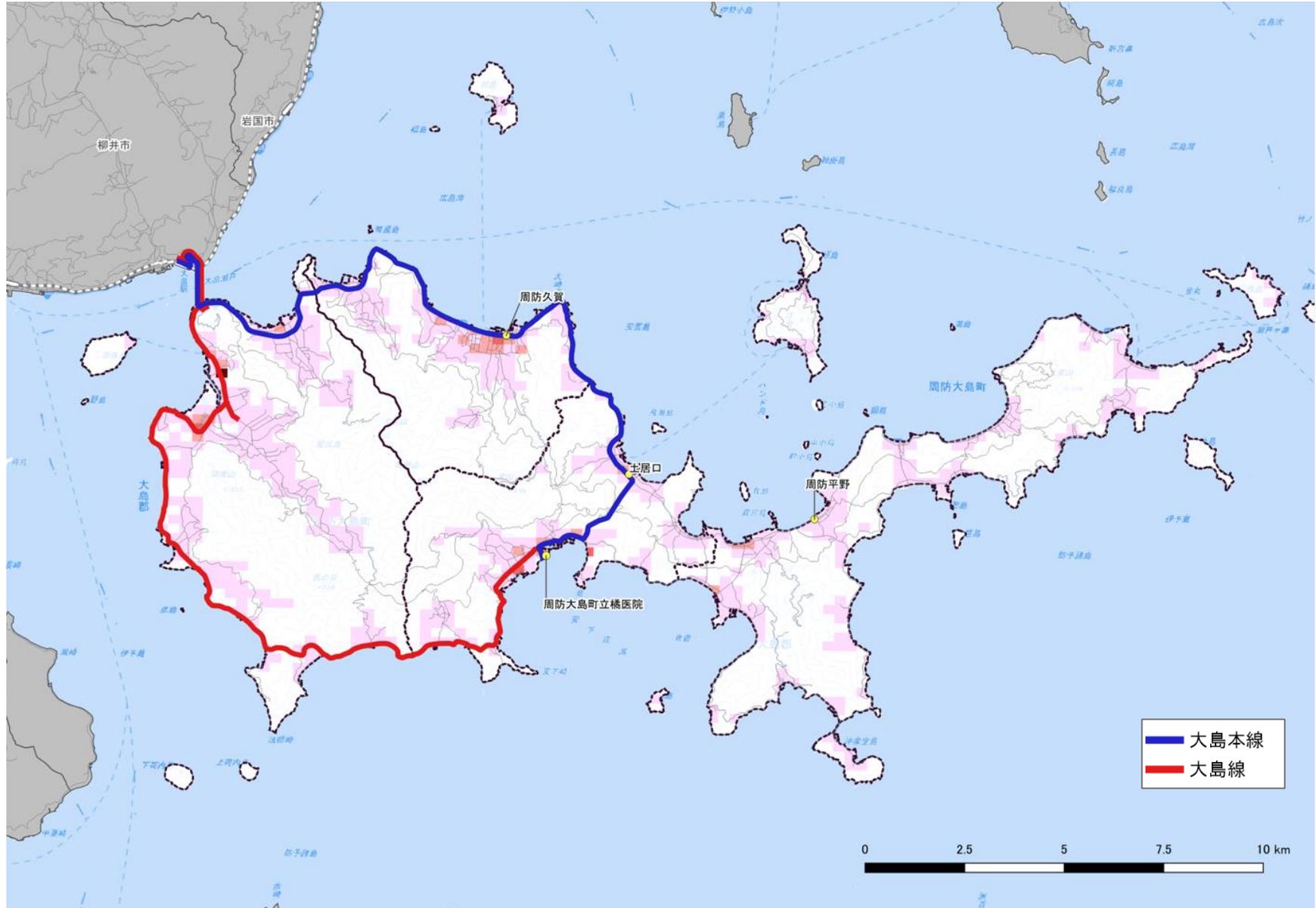


油田森野線（一般混乗）で使用している車両

再編後の運行イメージ

～全体像～

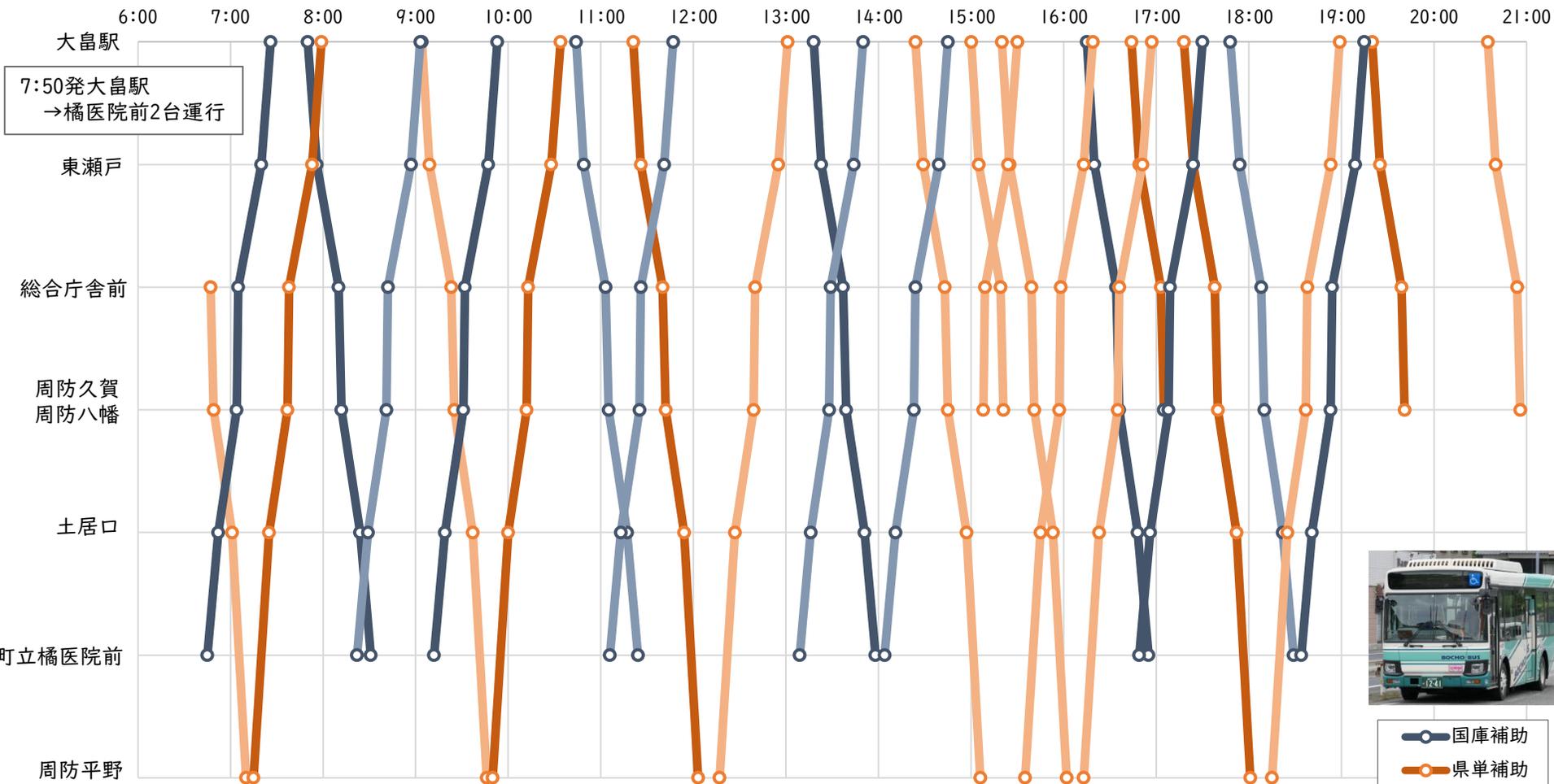




【現在の平日ダイヤ】大島本線（大島駅～久賀経由～周防平野・町立橋医院前）

※上り→岩国方面 下り→柳井方面

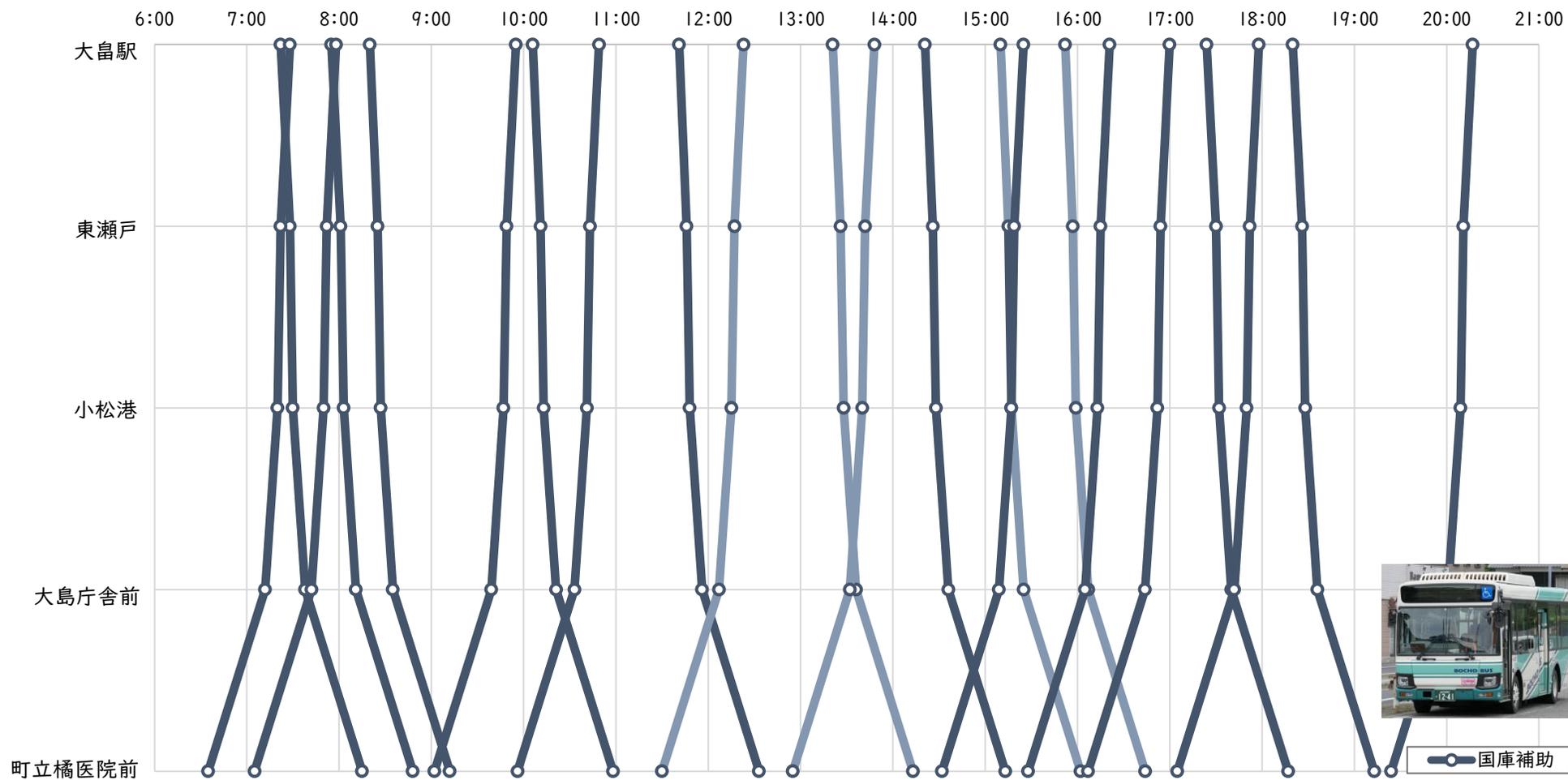
JR大島駅 発着時刻	上り	5:52	6:41	7:08	7:35	8:09	8:41	9:00	10:01	10:55	11:55	12:55	13:55	14:55	15:44	16:36	17:09	17:39	18:06	18:38	19:07	19:43	20:31	21:02	21:42	22:36	-
	下り	-	6:34	7:11	7:45	-	8:45	9:13	10:11	11:11	12:11	13:11	14:11	15:03	16:04	16:33	17:08	17:38	18:10	18:42	19:10	19:44	20:10	20:50	21:13	22:21	23:25



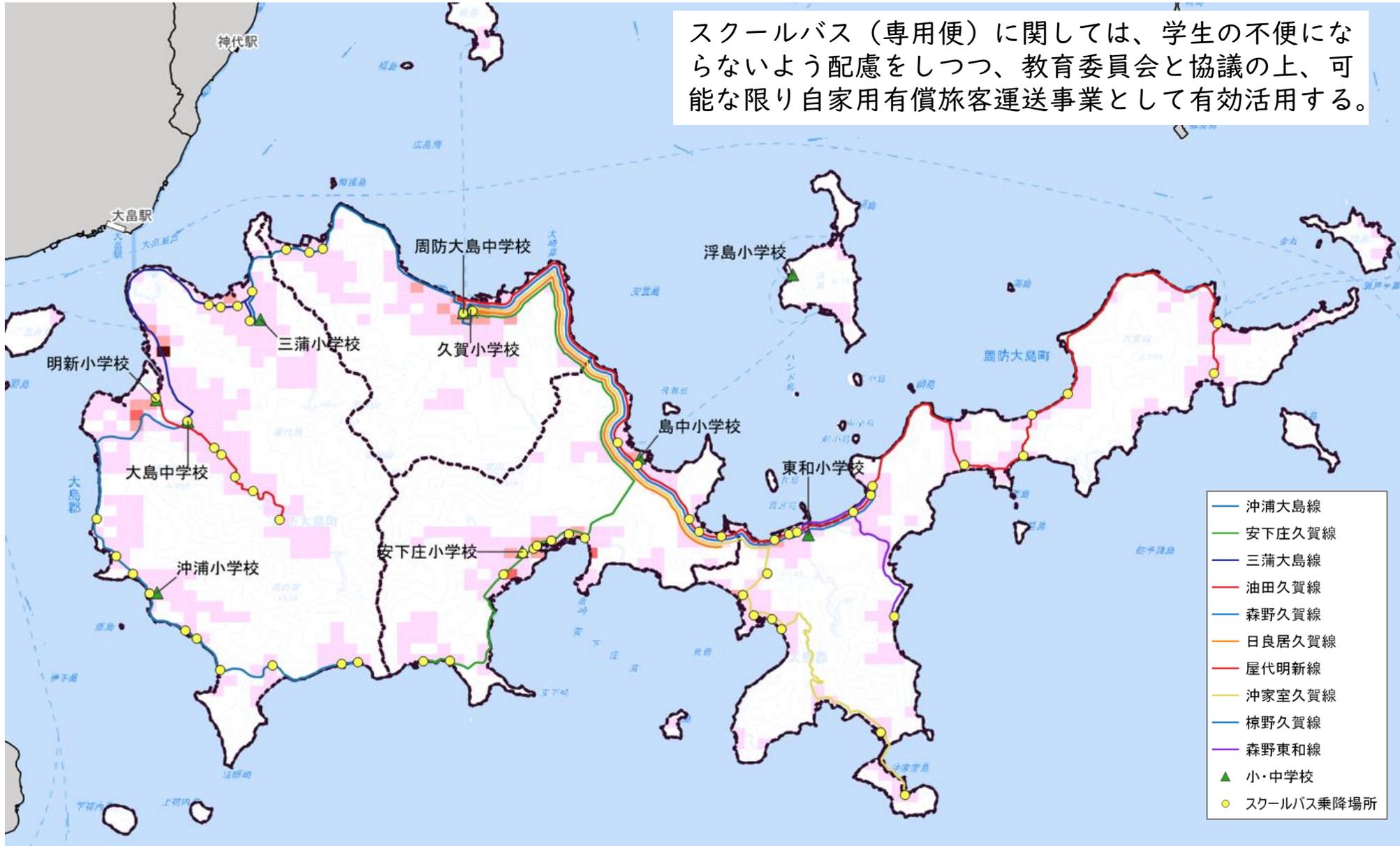
【現在の平日ダイヤ】大島線（町立橋医院前～大島庁舎前・沖浦～大島駅）

※上り→岩国方面 下り→柳井方面

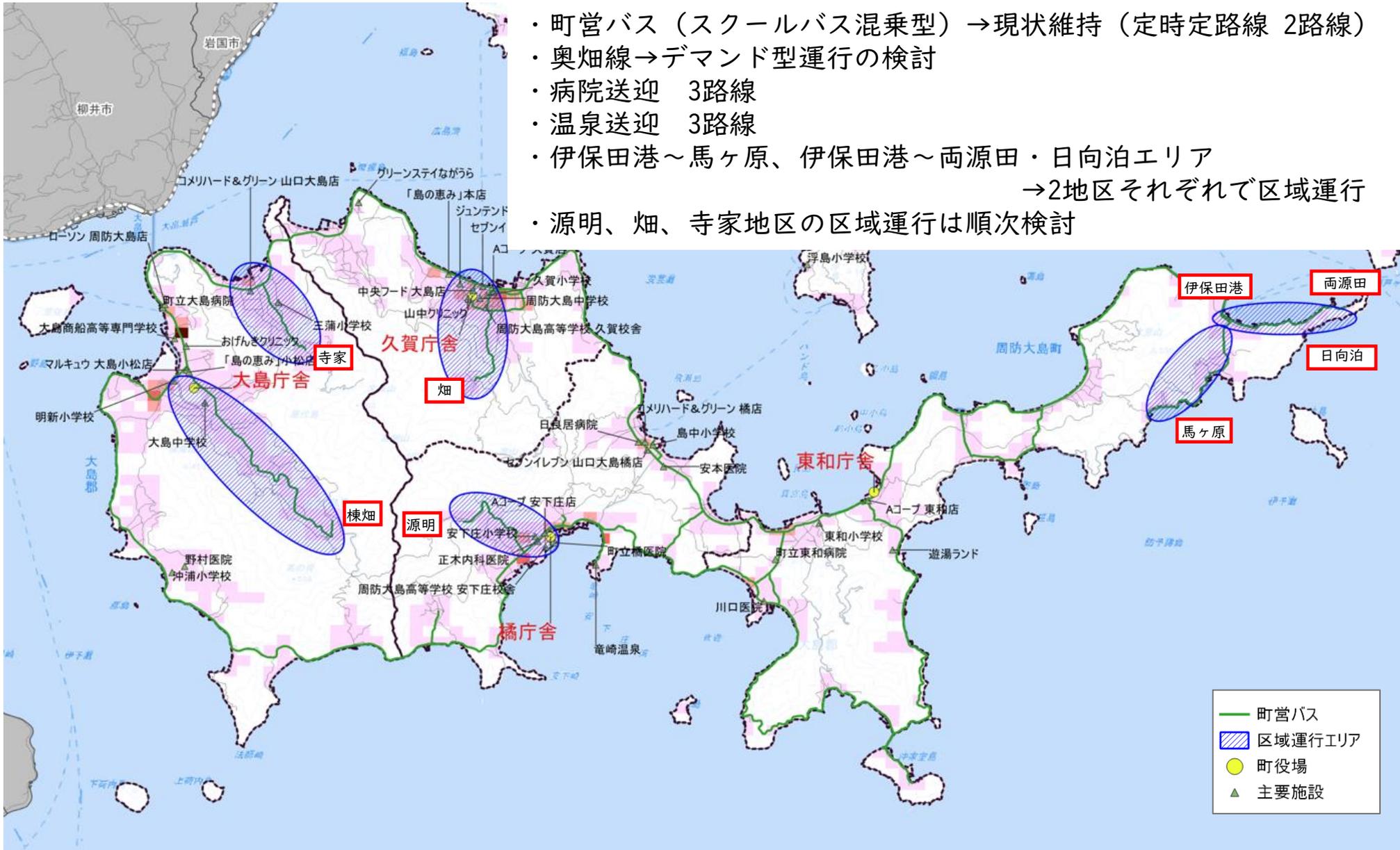
JR大島駅 発着時刻	上り	5:52	6:41	7:08	7:35	8:09	8:41	9:00	10:01	10:55	11:55	12:55	13:55	14:55	15:44	16:36	17:09	17:39	18:06	18:38	19:07	19:43	20:31	21:02	21:42	22:36	-
	下り	-	6:34	7:11	7:45	-	8:45	9:13	10:11	11:11	12:11	13:11	14:11	15:03	16:04	16:33	17:08	17:38	18:10	18:42	19:10	19:44	20:10	20:50	21:13	22:21	23:25



スクールバス（専用便）に関しては、学生の不便にならないよう配慮をしつつ、教育委員会と協議の上、可能な限り自家用有償旅客運送事業として有効活用する。



- ・町営バス（スクールバス混乗型）→現状維持（定時定路線 2路線）
- ・奥畑線→デマンド型運行の検討
- ・病院送迎 3路線
- ・温泉送迎 3路線
- ・伊保田港～馬ヶ原、伊保田港～両源田・日向泊エリア
→2地区それぞれで区域運行
- ・源明、畑、寺家地区の区域運行は順次検討



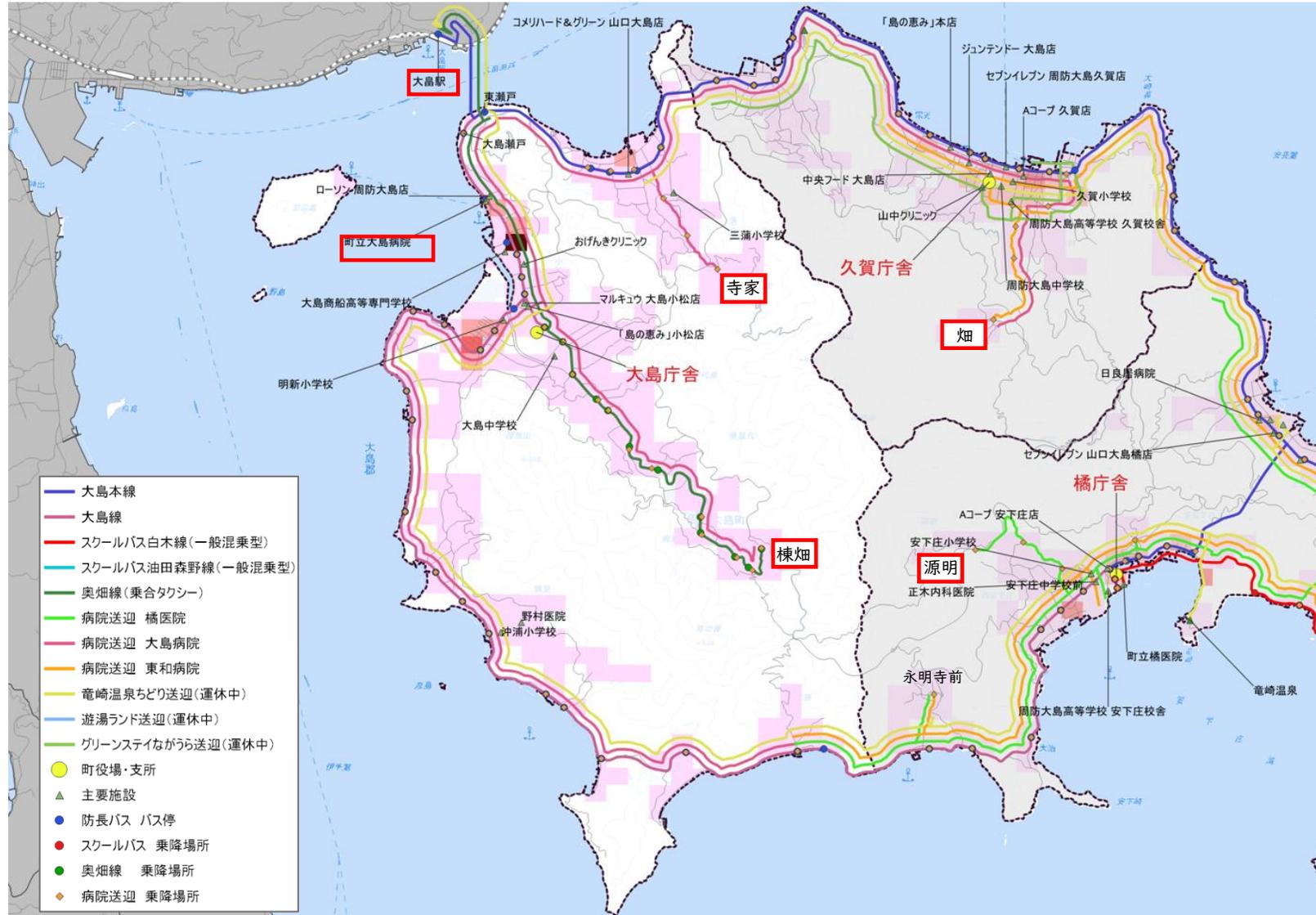
- 地域の実情に即した新たな地域内交通として、ドアツードアによるオンデマンド乗合タクシーの導入を地域との協働により検討する。
- 運行エリアはコミュニティセンター単位を基本とするが、地域の実情に応じて複数のコミュニティセンターエリアを合わせて運行することも視野に検討する。



- 基本的な考え方と利用イメージの例

運行エリア	<ul style="list-style-type: none">・ 単独または複数のコミュニティセンターエリア・ エリア内での運行を基本とし、エリア内の店舗や医療機関、交通結節点等により乗り継ぎなしで行き帰りできるようにする
利用方法 (運行方法)	<ul style="list-style-type: none">・ 利用者は電話やスマートフォンを使用して予約を行い、自宅近くから決められた目的地まで利用できる・ 同じ方向や時間帯の近い予約では、複数の利用者により乗り合わせて利用してもらうことで、効率的な運行を図る
運行時間	<ul style="list-style-type: none">・ 曜日や時間帯を限定して運行（例：平日の9時～16時など）

大島地区の現状



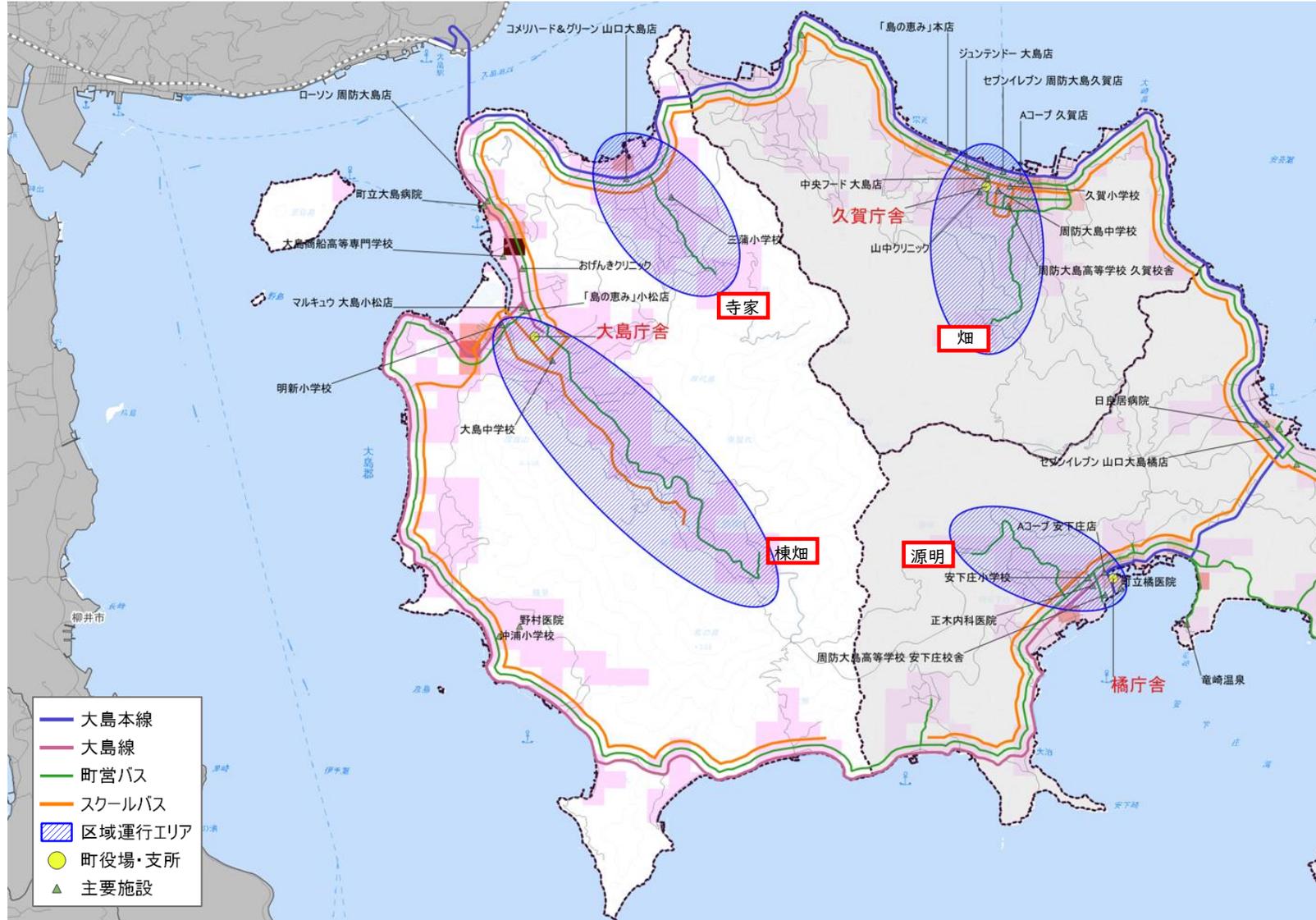
全域の再編関連の運行見直し

- 4条路線バスは需要の少ない時間帯を中心に便数削減と経路短縮を検討する
- 病院・温泉送迎等の無償運行は廃止
- 自家用有償旅客運送事業は、4条路線バスを補完する運行とする
 - ・ 病院送迎等のサービスをカバーするアクセス性重視の運行→デマンド運行検討
 - ・ 既存の運行資源（車両・ドライバー）を活用して、運行ダイヤなどでは利便性向上を図る
- スクールバス（専用便）に関しては、学生の不便にならないよう配慮をしつつ、教育委員会と協議の上、可能な限り自家用有償旅客運送事業として有効活用する。

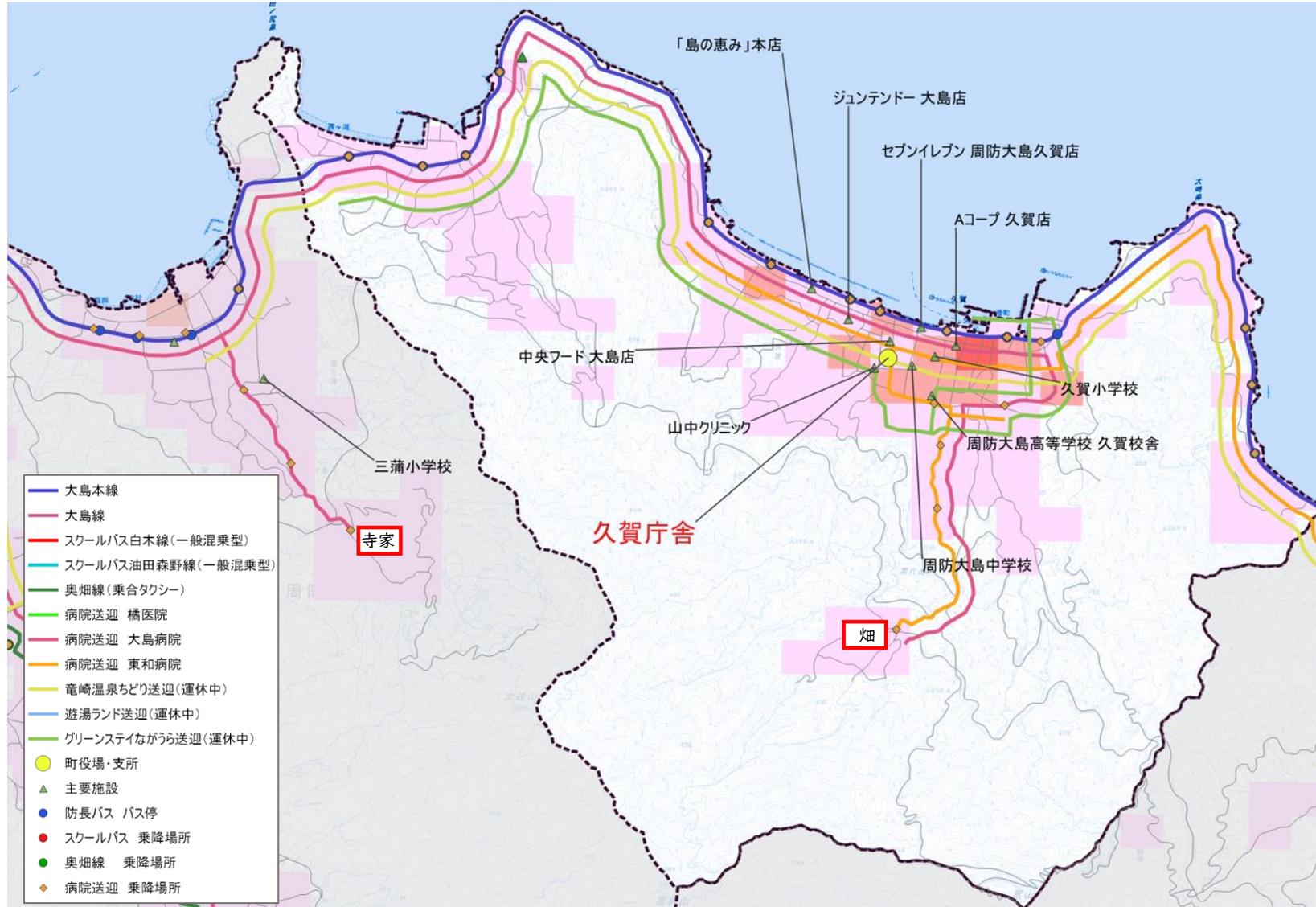
奥畑乗合タクシーの運行サービス見直し

- 大畠駅直通運行は無くす
- デマンド型運行の検討

大島地区の運行再編の概要



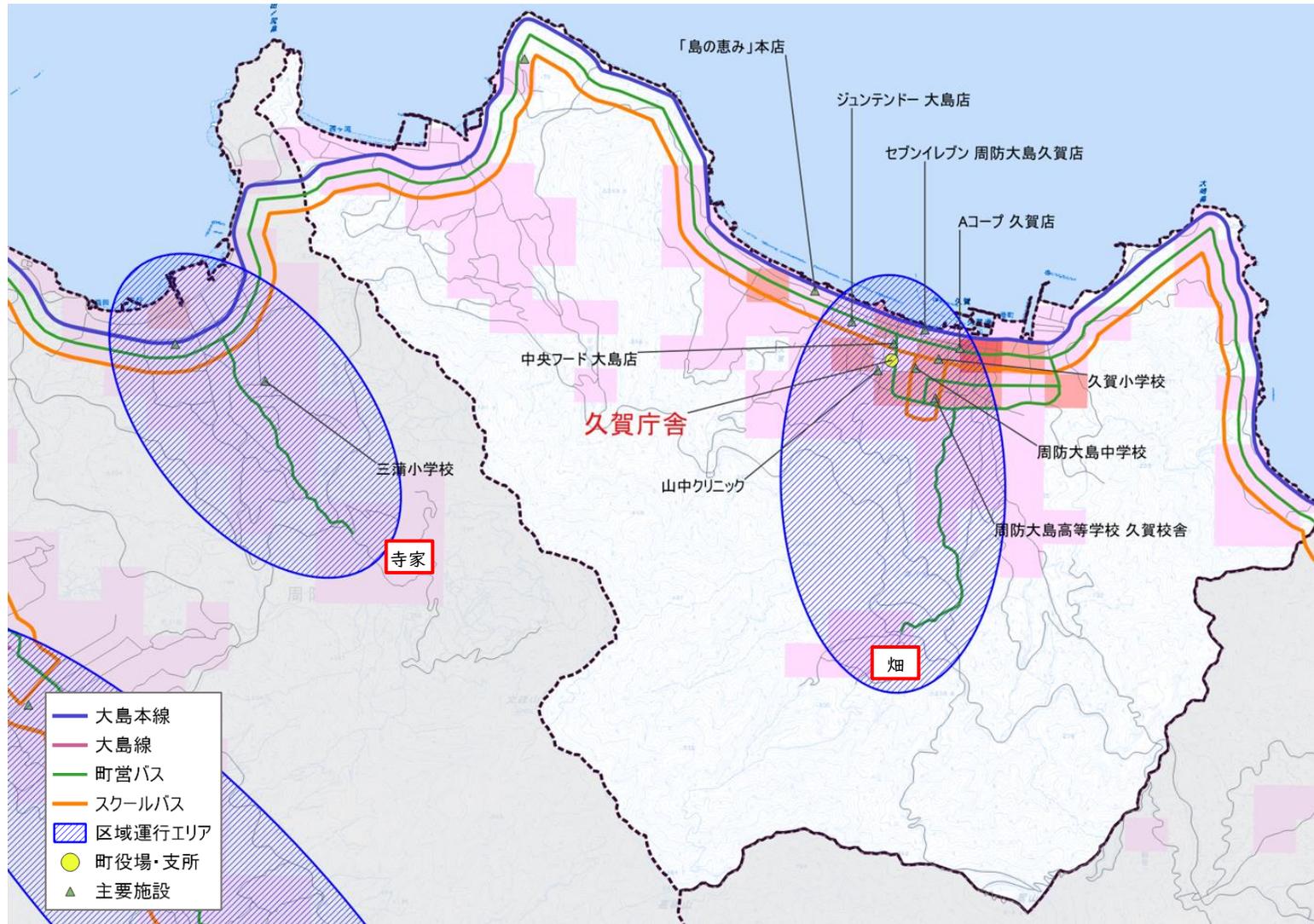
久賀地区の現状



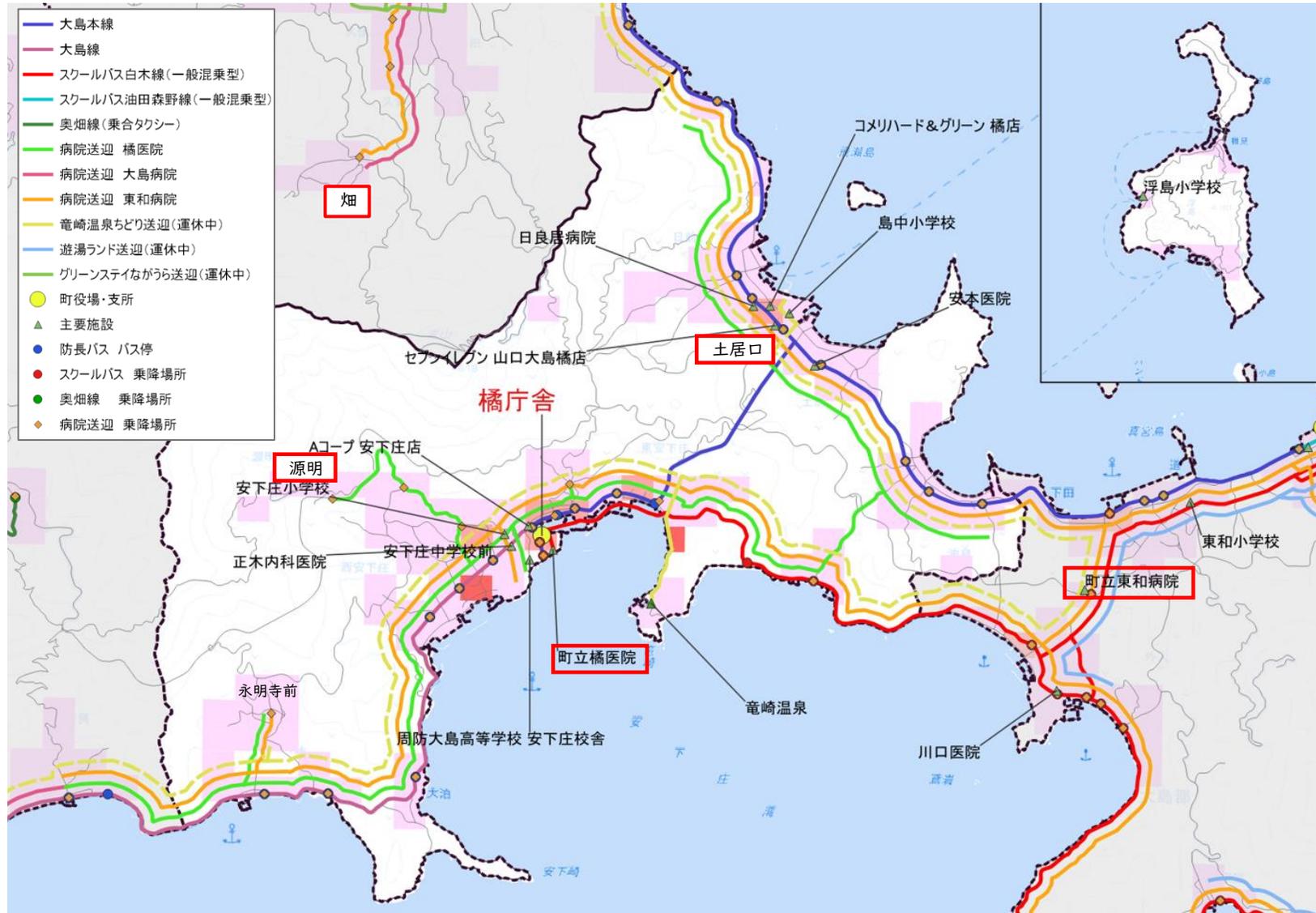
全域の再編関連の運行見直し

- 4条路線バスは需要の少ない時間帯を中心に便数削減と経路短縮を検討する
- 病院・温泉送迎等の無償運行は廃止
- 自家用有償旅客運送事業は、4条路線バスを補完する運行とする
 - ・ 病院送迎等のサービスをカバーするアクセス性重視の運行（畑地区へのアクセス）
→デマンド運行検討
 - ・ 既存の運行資源（車両・ドライバー）を活用して、運行ダイヤなどでは利便性向上を図る
- スクールバス（専用便）に関しては、学生の不便にならないよう配慮をしつつ、教育委員会と協議の上、可能な限り自家用有償旅客運送事業として有効活用する。

久賀地区の運行再編の概要



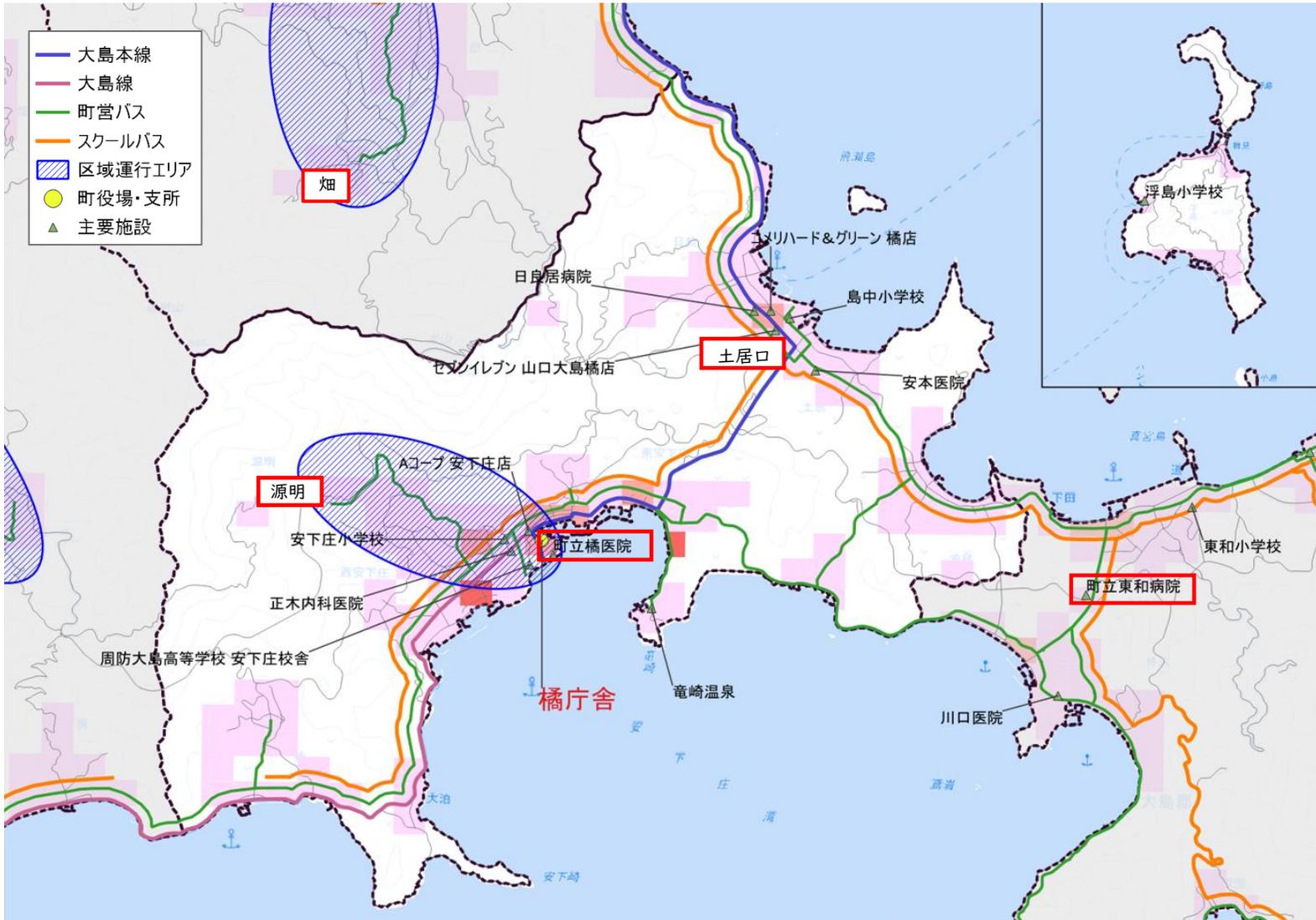
橘地区の現状



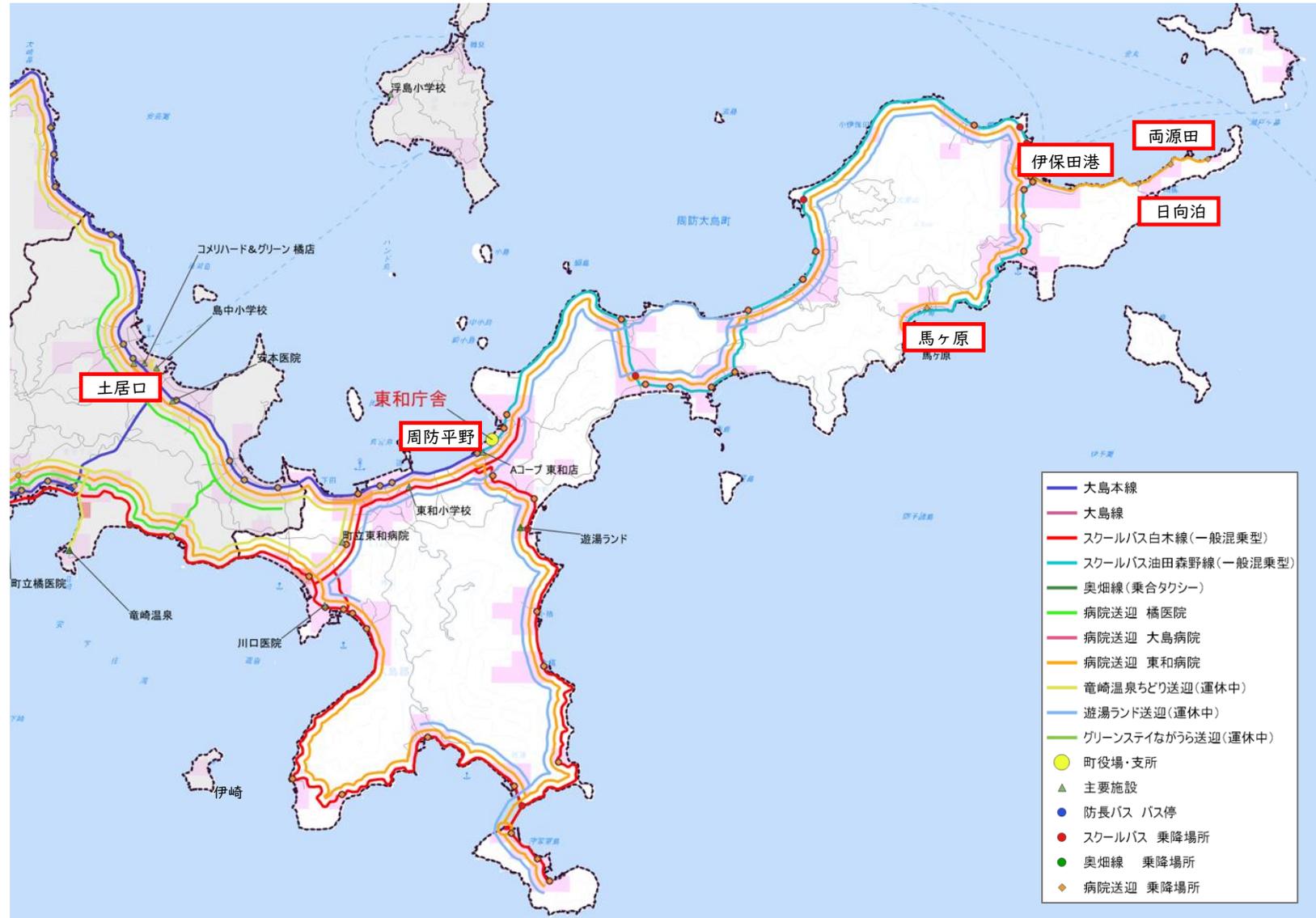
全域の再編関連の運行見直し

- 4条路線バスは需要の少ない時間帯を中心に便数削減と経路短縮を検討する
- 病院・温泉送迎等の無償運行は廃止
- 自家用有償旅客運送事業は、4条路線バスを補完する運行とする
 - ・ 病院送迎等のサービスをカバーするアクセス性重視の運行（源明～橘中心部）
→デマンド運行検討
 - ・ 既存の運行資源（車両・ドライバー）を活用して、運行ダイヤなどでは利便性向上を図る
- スクールバス（専用便）に関しては、学生の不便にならないよう配慮をしつつ、教育委員会と協議の上、可能な限り自家用有償旅客運送事業として有効活用する。

橘地区の運行再編の概要



東和地区の現状



全域の再編関連の運行見直し

- 病院・温泉送迎等の無償運行は廃止
- 4条バス路線は路線を廃止して、全域を自家用有償旅客運送事業として運行
 - ・ 病院送迎等のサービスをカバーするアクセス性重視の運行（伊保田港～馬ヶ原、両源田エリア）→デマンド運行検討
 - ・ 既存の運行資源（車両・ドライバー）を活用して、運行ダイヤなどでは利便性向上を図る
 - ・ 土居口で防長バスへの乗継を検討
- スクールバス（専用便）に関しては、学生の不便にならないよう配慮をしつつ、教育委員会と協議の上、可能な限り自家用有償旅客運送事業として有効活用する

東和地区の運行再編の概要

